

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名
ケアマネジメント入門 (通スクーリング)		2	1	通年開講	綿 祐二
テーマ	「福祉現場の命題的理念と実践的理念の融合」のできる福祉専門職を育てる～キャリア形成過程と職場環境整備について学ぶ～				
科目のねらい					
<p>【キーワード】福祉専門職、ケアマネジメント、ケア実践、チームアプローチ、</p> <p>【内容の要約】ケアマネジメントの基本理念や目的を理解し、自立した生活を継続するための包括的な支援としてのケアマネジメントプロセスについて学ぶ。ケアマネジメントは、一般的に①インテーク→②アセスメント(情報収集と生活課題の分析)→③プランニング(個別介護目標の設定と計画・立案)→④サービスの実施(ケア実践)→⑤モニタリング(中間評価)→⑥サービス評価→⑦再アセスメントのプロセスを経ていく。それぞれの段階においては、それを支える理論が基盤となっている。その理論の整理をおこない、介護現場におけるそれぞれのステージの課題を抽出することが学習目標である。また、自立支援、特にクライアントの意思決定支援の具体的方法、利用者ニーズのとらえ方、福祉現場の不適切ケア、権利擁護等について学ぶ。利用者主体性の原則から考えれば、フェルトニーズ(デマンド)を重視するが、専門的視点からのノーマティブニーズをどのように反映していくかが大きな課題でもある。例えば、食事場面の「経口」か「経管」か、「安全」か「自由」か、「行動制限」と「拘束」の違い、尊厳あるケア実践とは。実際の介護現場で起こる価値観の違いを理解して、どのように多職種連携によるチームアプローチを実践していくかなど、事例を通して議論を行っていく。●担当する教員は、福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、その経験と知識を元にケアマネジメントについて講義を行う。【日程・スクーリング会場】https://www.nfu.ne.jp/open/image/lesson/schooling_schedule.pdf ※変更の場合は随時お知らせします</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ケアマネジメントプロセスにおける各ステージの課題を抽出することができる。 ②クライアントのアセスメントを通じてフェルトニーズとノーマティブニーズを分け、リアルニーズ(課題)を明確にできる。 ③個々のケア実践の合理的な説明ができる。 ④ケア現場における権利擁護の具体的実践について説明できる。 ⑤困難ケースについての対応法を学ぶ。 					
授業のながれ					
<p>【講義の流れ】</p> <p>講義は、2つのステージで構成される。第1ステージは、それぞれの福祉専門職の業務の意義とそれを支える命題的理念や普遍的価値観を整理することである。つまり、福祉専門職のキャリアイメージの確立を目指す。福祉専門職が持つべき「権利擁護」「職業倫理」「利用者本位」「エンパワーメント」「尊厳ある支援」「行動規範」「リスクマネジメント」などを具体的福祉現場の場面を想定し議論を行う。第2ステージでは、それらを事例を通して、具現化するための価値交流を行っていく。福祉現場では、多様なかつ複雑な対象者に対して支援をしなければならない。頭で理解しても、実際には異なった実践がある。例えば、「拘束」と「ミトンの使用」は同じなのか、食事場で偏食は利用者本位なのか、「完全」と「挑戦」どちらが大切なのか、「支援・介護事故を無くすには～事故要因分析方法～」など、それらを職員の中で共通認識を持たなければ、本来の人材育成には繋がらない。「理論と実践の融合」のできる職員育成について学習する。</p> <p>【講義のポイント】</p> <p>福祉専門職は、個人の価値観に資するところが多い。まずは、福祉専門職としての自己覚知を行う。その後、実際の福祉現場における職業人としての課題を見つけることである。実際の福祉現場の支援を客観的に振り返り、理論と融合させていくことが重要である。決して「机上の空論」で終わってはいけない。福祉専門職は、徹底的に議論を続けていく職業であると考えている。</p>					
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習		
<p>これまでの福祉実践の客観的振り返りとケア・支援に対する困難であったことや迷いを具体的場面の中であげておくこと。</p> <p>福祉現場では、まだまだ理念通りのケアが実践できないことも多くある。本講義では、福祉現場の現状を共有した上で、どのように様々な福祉理念(利用者本位、自己決定、権利擁護、尊厳あるケアなどなど)実践していくかを本音でディスカッションをおこなっていく。ケア実践の場面は、まだまだ賛否両論が存在する。ディスカッションの過程において、多くの知見に触れ、自分なりの福祉観を涵養してほしい。ディスカッションは、正誤を決めることではなく、多様な考えを受け入れ、相互の意見から新たな知見を得るものである。積極的な議論をしていきましょう。そして、ケアに対して責任のある説明をして力を身につけていきましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】</p>			事前	関連図書を手にとってみる。	10時間
			事後	興味をもった講に関して学習を深める。	10時間
					時間
					時間
					時間
成績評価の方法					
<p>期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)</p> <p>授業内でのレポート・課題等</p> <p>その他</p>	80%	スクーリング最終日に行われるレポートにより評価する。評価基準はA(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)を合格、D(59点以下)を不合格とする。スクーリング最終日に行われるレポートにより評価する。評価基準はA(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)を合格、D(59点以下)を不合格とする。			
テキスト					
<input type="checkbox"/> テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)					